

第5号の刊行によせて

金沢城研究調査室は、平成13年7月に開設以来、はや6年を経過しました。この間、絵図・文献や埋蔵文化財、建造物や石垣等、各種資料の基礎的な調査研究に室員一丸となって取り組み、貴重な歴史遺産である金沢城跡の実態解明を進めてまいりました。今年度は、河北門復元整備に伴う埋蔵文化財や絵図文献等の調査に着手し、史実性の高い整備に不可欠な知見を数多く得ることとなりました。また、情報発信におきまして、平成19年1月には、「第4回全国城跡等石垣整備調査研究会」を金沢で開催し、全国の石垣整備関係者をはじめ多数の県民の皆様これまでの石垣調査・研究の成果について、満足いただける情報を提供できたと考えております。

本書も第5号を数えるに至りましたが、本号では石垣技術書として全国的に名高い加賀藩穴生方後藤文庫の調査にもとづく、「石垣秘伝書」の形成過程に関する論文や、復元整備が行われる河北門に関する資料紹介など、室員による日々の調査研究の成果を中心に掲載いたしました。

この4月には調査室を石川県金沢城調査研究所へ改組することとしております。これを機に、これまでの調査研究を更に発展させ、全国的な視点にたった金沢城の比較研究を推進する所存です。

最後になりましたが、本書が県民の皆様の高い関心に応え、金沢城の保存・活用の一助となり、広く近世城郭研究に資するものとなれば幸いと存じます。

平成19年3月

石川県教育委員会
教育長 中西 吉明